

厚生年金保険本体の平成20年度の運用実績の推計値について

対象先	DB年金	厚生基金	適格年金	退職金	その他
	法令通知	財政運営	資産運用	会計基準	その他
内容					

ご参考にDB年金のお客様にも送付させていただきます。

ポイント

平成20年4月1日から平成21年3月31日までの厚生年金保険本体における運用利回りは、6.9%と推計されます。(弊社推計)

推計値は、平成21年4月時点での弊社の推計値です。実際の厚生年金保険本体の運用利回りとは異なる場合がありますので、取り扱いにはご注意ください。

厚生年金基金への影響

厚生年金保険本体の運用利回りは、厚生年金基金の財政運営上、以下に影響があります。

- 最低責任準備金のコロガシ計算の付利率
- 回復計画上の最低責任準備金の付利率

影響 最低責任準備金のコロガシ計算の付利率

今回の実績値は、1年9ヶ月遅れて平成22年1月1日～平成22年12月末日の期間の最低責任準備金の付利率として適用されますので、平成21年度および平成22年度の財政検証時に利差益が発生しやすくなります。

厚生年金本体運用実績 (年度)	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度							
	6.82%	3.10%	3.54%	6.9%	X%							
基金への適用期間 (暦年)	1年9ヶ月期ずれ											
	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年						
	2.73%	6.82%	3.10%	3.54%	6.9%	X%						
基金への適用利率 (年度換算平均)	H19/1～		H20/1～		H21/1～		H22/1～		H23/1～		H24/1～	
	H18年度		H19年度		H20年度		H21年度		H22年度			
	9ヶ月	3ヶ月	9ヶ月	3ヶ月	9ヶ月	3ヶ月	9ヶ月	3ヶ月	9ヶ月	3ヶ月	6.9%とX%の加重平均	
	3.75%		5.89%		1.44%		4.38%					

影響 回復計画上の最低責任準備金の付利率

平成20年度の財政検証に基づく回復計画の積立目標が、従前の回復計画に比して低下します。なぜなら、回復計画上の将来の最低責任準備金のコロガシの付利率として当該利率の過去3年平均が適用できるからです。

なお、当該3年平均がゼロを下回る場合は実績に基づき合理的に見込まれる率とすることとされていますが、具体的な取扱いは今後検討するとされており。

《厚生年金本体の運用利回り》

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
年度実績	6.82%	3.10%	3.54%	6.9%
過去3年平均	-	-	2.13%	2.45%

《平成20年度回復計画上の最低責任準備金の付利率》

	平成21年4月～12月	平成22年1月～12月	平成23年以降
付利率(過去3年平均)	3.54% (告示済の値;年あたり)	6.9% (今後告示される値)	過去3年間の平均(2.45%) 合理的に見込まれる(0% ?)

厚生年金本体の運用利回り推計方法

公的年金の資産区分ごとに、以下のとおり推計いたしました。

	内容	推計方法
市場運用分	年金積立金管理運用独立行政法人による市場運用。	平成20年度第3四半期までは公表値。平成21年1月～3月はベンチマーク収益率に基づき推計。
財投債引受け分	年金積立金管理運用独立行政法人による財投債運用。新規引受けは平成19年度まで。	過去の発行実績を基に全額満期まで保有する前提で推計。
財政融資資金預託分	財政投融資資金に預託し運用。平成20年度までに全額償還。	公表されている償還、利子受け取りの予定を基に推計。
承継資産分	旧年金福祉事業団から承継した資産の運用(原資である借入金の返済義務も承継)。	公表されている借入金残高や金利を基に推計。

(基礎数値の出所)

厚生労働省「平成19年度年金積立金運用報告書」、年金積立金管理運用独立行政法人「平成19年度事業概況書」、年金積立金運用独立行政法人HP

以上